

行財政改革市民懇談会(平成25年度第1回) 会議録

日時：平成25年11月19日(火)
午後7時～9時
場所：全員協議会室

出欠状況

座長					
富田	秋山	伊藤	川尻	菅野	鈴木
○	○	○	○	欠	○
関	時田	内藤	柳田	吉原	
欠	○	○	○	○	
事務局(政策企画課)	総合政策部長、課長、副課長、照屋				

内 容
<p>1 開 会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策企画課長 <p>2 あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合政策部長 <p>4 自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者と事務局の自己紹介 <p>5 座長の選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互選により座長は富田氏 ・座長あいさつ <p>6 議 事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第の進行は座長 <p>(1) 富士見市行財政改革市民懇談会の役割について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき、事務局より説明 <p>○質疑</p> <p>参加者：この会で何かとりまとめる計画などはあるのか。</p> <p>事務局：計画等とりまとめの作業ではなく、それぞれの改革項目、また市の業務全般について市民の皆さんのご意見をいただき、それぞれの業務に反映させるための懇談会である。</p> <p>参加者：市民の代表である市議会と二重にならないか。</p> <p>事務局：市議会には各案件の議決をしていただいている。提出した議案を議会で審議する民意の反映だけではなく、日々の業務やこれから改革がすすめられてい</p>

く項目についても市民の声を反映させることが重要と考えている。行財政の専門家の意見も重要であるが、市民の生の声も重要。行財政改革という言葉の響きは硬く感じられるかもしれないが、難しく考えず、率直なご意見を賜りたい。

参加者：会議の進め方についてどのように考えているか。

事務局：今回は初回なので、全体説明をさせていただくが、今後は、毎年更新する行財政改革行動計画の進捗状況や、年度後半の会議では次年度の予算概要や計画、事務事業評価の結果など、今後、市がどのように動いていくかをご説明させていただき、そのうえでご意見を賜りたいと考えている。

(2) 富士見市の行財政改革について

・資料に基づき、事務局より説明

○質疑

参加者：例年、予算で大きなウエイトを占めている社会保障費・扶助費について行動計画で触れられていないのはなぜか。

事務局：社会保障や扶助にも様々な種類があるが、ジェネリック医薬品など市でも取り組んでいる歳出削減策はある。また、生活保護費の不正受給防止に尽力することは市として当然の責務である。景気の低迷等、社会情勢の反映として近年、扶助費の予算規模が大きくなっているが、市としても就労支援にも取り組むなど努力は続けている。また、国も市も子育て支援に力を入れているので、その分野での歳出もある。

参加者：無駄に医療機関を受診せず、医療費を何割抑えることができれば、国民健康保険料が何円安くなりますよ、などのキャンペーンを市で展開できないものか。

事務局：医療費を抑えるためであれば、具合が悪いときは早めに医療機関を受診し、対応を行って、健康長寿で暮らしていくべき、という考え方もある。その観点では、食育や歯科口腔に関する教育が大事である。糖尿病等で行う人口透析は医療費が高額であるため、予防の観点での取り組みが肝心である。

参加者：企業誘致の推進について、市の土地そのものを整備して企業を誘致するという考え方は分かるが、県の制度融資を使っている市町村では利子補給がある、富士見市では無いとなると、企業運営の上では、厳しい面がある。その状況では企業誘致が叶わないのではないか。また、受益者負担の適正化の項目の放課後児童クラブの保護者負担金について、近隣の市町村より富士見市は月額で千円高い。3年ごとの見直しはあるそうだが、リサーチが甘いと思う。フィルムコミッションについては、文化財だけでなく、市の公共施設なども撮影に使えるのではないか。積極的にPRすべき。行財政改革として全体的に自己満足の感がある。もっと改革の余地があると思う。

事務局：企業誘致については、進出すべき土地の問題も含め、総合的にまだまだ取り組んでいく必要があると考えている。放課後児童クラブの保護者負担金については、毎年変更すると様々な弊害があるため、3年周期での見直しの際の

リサーチを強化して金額を決めていきたいと思う。フィルムコミッションについては、当市でも市の施設を撮影に使用した例もあるが、よりPR活動に強化していきたいと考えている。

参加者：富士見市のPRでいうと、昨年は市制施行40周年ということで、ふわっぴーなども誕生した。ゆるキャラの活動も全国的に活発なので、頑張ってもらいたい。

事務局：ふわっぴーは広域的なイベントにも参加させていただき好評なので、来年度以降、グッズ展開も含めた方向で検討を進めている。昨年度は、東日本大震災の被災地支援の取り組みの一つとしてふわっぴーポロシャツの作成も行ったので、今後の展開の参考にしたい。

参加者：各業務について、他市町村の事例研究は行っているか。

事務局：様々な事業があるが、他市町村はどうやっているのか、というリサーチは、事業の運営において必ず必要になっている。リサーチ結果との比較検証の上で決定することがほとんど。行財政改革項目の一つである窓口の改善については、3、4年のリサーチと準備の期間を経て実現した。他市町村の視察なども行い、各実施例の研究の結果、総合的窓口という独自のスタイルを確立できた。どの事業も、他市と同じであればいいというものではなく、富士見市にあった方法に向かっていくべきなので、気づいた点があれば、この会などでお教えいただきたい。

参加者：キラリふじみや市民体育館の予約が取りづらい。市民優先だとありがたい。

事務局：今のところ、市民優先の方向には動いていない。条例との関係もあるが、公共性や規模の大きさによる優先制度など、今後も検討を続けたいと思う。

参加者：市役所周辺で同日に開催されるイベントなどについて、合同開催で盛り上げるなど、所管課の枠組みを超えて取り組んでほしいと思う。

参加者：富士見市について改めて考察すると、市の特色、と呼ばれるものがない気がする。企業誘致など進めていくべき取り組みはたくさんあるが、内面としての部分も重要。われわれ住民も積極的にならなければいけないが、市として富士見市はこれだ、という特色を作るべきである。電車の相互乗り入れなども始まったことだし、観光協会の設立などから始めていくべき。昼間人口も上げていかなくてはならない。市民としては、富士見市ってどこにあるの、と聞かれるのが一番つらい。

参加者：市としての誇りが欲しい。

参加者：商工業者としても、市のブランドづくりを行いたいと考えている。

参加者：観光協会も含め、市のPR体制を強化することが不可欠。市の取り組みとして良いことをたくさん行っているのに、そのPRができていないと思う。小中学校へのエアコン設置なども、子育てするなら富士見市でというPRとして、もっともっと外部にPRできると思う。

事務局：市のPRについて、第5次基本構想にも富士見市ブランドの推進などが盛り込まれている。また、キラリふじみについては、設立してまだ10年だが、文化分野においては、知名度を獲得している。市としても、キラリふじみの

活用も含めて、市の魅力のPRを積極的に行っていきたいと考えている。

参加者：職員の削減について、かなり削減が進んだようだが、どう考えるか。市の業務委託が進んだだけなのか。

事務局：市の業務を委託するなどの置き換えの削減策も当初は行っていたが、富士見市は職員一人あたりの人口数が県内で3番目に多いことなど、急激に職員削減が進んだ現状がある。また、市の業務も県からの権限移譲などにより以前に比べ大幅に増加している中で、地域防災や町会活動など、市民の皆さんにも助けていただきながら運営をしている。市民の皆さんにきちんとした公共サービスを提供しつづけるためにも、必要数の見極めと組織体制づくりが肝心と考えている。

参加者：市の委託業務について、入札の設定金額が低すぎると思う。受託会社に利益が生まれなければ、市の経済的にも良くない。

事務局：工事などの分野は、国の方も基準を上げてきているので、業務委託についてもより適正な水準の研究を進めていきたいと思う。

参加者：新設されるふじみ野出張所施設の駐車スペースはどうか。

事務局：あまり面積のない土地なので、駐車スペースは3台分しか取れない。ふじみ野駅の自転車地下駐輪場の収納台数を増やすよう調整している。

(3) 次回の開催について

- ・平成26年3月を予定

7 閉 会